

2011年(平成23年)10月19日(水曜日)

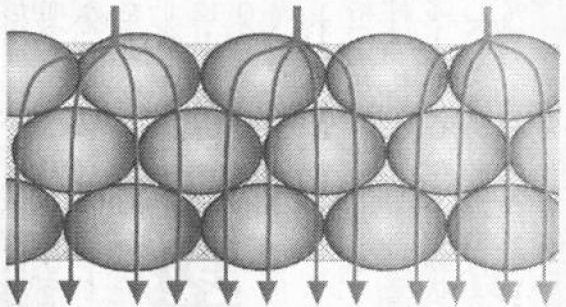
デルフィーニ・ジャパン

液状樹脂を繊維に吸着固化させる「フレーム構造化」で、透水性と強度の両立を実現したデルフィーニ・ジャパンの透水性舗装『Leo8』。水だけを通し、体積の大きい土砂や埃は通さない「超微細メッシュ構造」のため、透水性舗装の弱点となる目詰まりを起こさないのが特徴だ。半永久的に透水能力を維持させるなど、道路の耐久性を飛躍的に向上させる。

高い圧縮強度、曲げ強度、透水能力などを備える独自技術の合成樹脂を、

コンクリートやアスファルトの代替製品として利用する。道路

Leo8



- ・超微細メッシュ構造で水だけ通す
- ・骨材が緻密にでき、強度がアップ

機能を低下させるほか、骨材間隔の広さによる強度の弱さが課題になる。

『Leo8』は、この2つの問題を解消。高速道路のカーブなど、透水性と耐摩耗性が同時に求められる場所での利用が期待される。

また、気温10度以下でも施工でき、寒冷地で導入しやすい。利用できる骨材も木材やガラス、貝殻、砂利など多岐にわたるため環境に優しいリサイクル材も使用できる。

東日本旅客鉄道(JR東日本)が今春完成させた新宿駅JR高速バスターミナル(新宿駅新南口

〈代々木〉の側溝やトイレの床に導入実績がある。リスニ(小笠原利江代表取締役)が開発した消

臭に効果があるホタテのリサイクル材を骨材に使用し、トイレ環境の向上にも役立っている。

このほか、柱状にして地面から地下水域にまで打ち込めば、土中の水分が地下水に流れるため、アスファルト舗装した駐車場などでの冬季の凍土対策にも効果を発揮しているという。

東日本大震災では、関東の沿岸部や河川流域など広範囲で液状化現象が発生。浦忠宏代表は「液状化する土地の改良にも『Leo8』を生かせるのではないかと。地盤改良に技術を展開できる可能性が高い」と液状化対策としての活用にも期待する。



デルフィーニ・ジャパン 東京都港区浜松町2-4-1世界貿易センタービル12階 電話03-6804-1108
8. 電子メール info@delphin-j.com

透水性と強度を両立

やトンネル、橋梁など幅広く適用できる。
通常の透水性舗装は、骨材と樹脂の隙間を雨水が通るのだが、時間とともに土や埃が隙間をふさぎ